

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立熊野高等学校	左 近 晴 久
学校所在地		
〒 6 4 9 - 2 1 9 5 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 6 7 0 番地 TEL 0 7 3 9 (4 7) 1 0 0 4 FAX 0 7 3 9 (4 7) 4 2 0 0		
担当者名		役職名・担当教科
酒井久視／宮地良斉／河野剛士／田城賢司		教諭・公民科
〔学校の概要〕		
<p>和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、熊野古道が本格的な山道〔中辺路〕に分け入るところである。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、改めて熊野参詣道について学習する意義が高まった。</p> <p>本校は1923年紀南農学校として開学し、その後、熊野林業学校と改称し、以来林業を学ぶことができる高校として発展してきた。平成16年に総合学科高校に改編、平成20年に看護科が移設された。令和4年度創立百周年を迎えた。</p> <p>純朴でどの子どももよくあいさつをし、部活動に積極的である。</p> <p>また、町内唯一の高校であることから、上富田町と学校クラブ・サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、隣接の上富田中学校とは授業参観交流(教員)や部活交流を行い、地域との関わりが深い学校である。</p> <p>昨年度より新型コロナウイルスの感染拡大により、活動の制限を余儀なくされる中、可能な形を模索し、活動を継続する努力が続けられている。</p> <p>なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年2・3年生 59名	職員 4名	2号館情報処理教室・会議室
実践研究テーマ		
世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化		
実践教科等名	単元名	
学校設定科目 社会文化研究(地歴公民科)	地域の歴史文化	
〔キーワード〕		
世界遺産 熊野古道 情報発信 地域 観光		
〔単元目標〕		
<p>(1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。</p> <p>(2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。</p> <p>(3)(1)(2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生の視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。</p> <p>(4)フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕		
全体 50 時間 (「世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化」 10 時間)		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター 世界遺産講座 次世代育成事業 現地学習		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	事前学習Ⅰ 世界遺産クイズ	本校職員により実施。 親しみやすいトピックを選び、世界遺産に関する興味関心を高める。	〔関心・意欲〕 見学時の取り組み 〔知識・理解〕 ワークシート
2	導入として世界遺産に関するトピックをクイズ形式で出題し、各グループで解答する。		
3	事前学習Ⅱ 「山伏と日本のこころ」	本校職員により実施。 山伏の衣装や持ち物に象徴されている意義を読み解きながら、修験や熊野の信仰が日本の基層文化につながることを実感させる。	〔関心・意欲〕 ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート
4	山伏を通して、日本の基層文化でもある熊野の信仰や文化について学習する。		
5	世界遺産入門 「紀伊山地の霊場と参詣道」	ワーク時における巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。	〔関心・意欲〕 ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート
6	世界遺産センター職員による講義とグループ学習を通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」について、基本的な知識や世界遺産としてどのような価値を有するのかを理解する。		
7	熊野古道現地学習 高校生自身が感じる熊野古道の魅力をテーマに、世界遺産マスターの方々によるガイドのもと滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。熊野古道の魅力を体感し、「熊野古道フォトエッセイ」作成のため、写真撮影等を行いながら情報を収集する。	「熊野古道フォトエッセイ」の作成意図を明示し、目的を持って現地学習に臨めるように事前学習を行う。	〔関心・意欲〕 〔思考・判断〕 情報収集の成果 (写真等)
8			
9	熊野古道フォトエッセイ作製 フィールドワークでの写真とインターネットでの調べ学習をもとに、生徒自身が感じた古道の魅力を発信するためのフォトエッセイを作製する。	Word の操作や写真の配置等、適宜技術的なアドバイスを行う。	〔技能・表現〕 作製したフォトエッセイ
10			

〔単元学習の成果と課題〕

この単元は科目の設置以来、学習の柱の1つに位置づけてきた。事前学習を通して、世界遺産の意義や参詣道を持つ“顕著な普遍的な価値”を理解した上で、現地を歩くことによって、生徒自身の感性と学習内容が結びつき、より深い学びにつながっている。
今年度は事前学習をまとめて配置することができたので、より効果的な学習を行うことができた。
しかし、日程の関係により今年度は2年生のみの受講となってしまったのが残念であった。

〔世界遺産学習の効果〕

学校設定科目「社会文化研究」のねらいに「和歌山の歴史文化を理解すること」がある。
世界遺産学習を設定することで、身近な地域の自然や文化が世界的にも認められた価値を持つことを知り、単に知識としてではなく、継承・保存するべきものとして、地域の文化を理解することができる。多少なりとも、社会参加への意欲も養うことができた。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

社会文化研究では上富田町内の調査を学習活動の一環に位置づけている。授業時数の関係から難しい点もあるが、次世代育成事業の成果を町内の世界遺産学習に発展させて、世界遺産を活かしたまちづくりを考えるとといった学習課題にも取り組みたい。

様式 2

令和 4 年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

熊野古道現地学習〔令和 5 年 2 月 1 4 日（火）実施〕

2 年生 1 7 名（2 班編成）が参加した。

世界遺産マスターの方にガイドをしていただき、熊野古道館・滝尻王子～高原熊野神社を歩いた。道中、フォトエッセイ作成のため、各自が魅力に感じた風景を撮影し、古道の魅力を感じながら、フィールドワークを行った。

《日程》

1 3 : 2 0 滝尻王子

1 5 : 3 0 熊野高原神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

現地学習の際撮影した写真の中から 1 枚のみを選び、その写真を撮影した理由を通して、熊野古道の魅力を伝えるエッセイ。古道に関する情報は 200 字程度におさえ、写真の説明や感じたことを中心に記述している。

*今年度は授業時間の関係で 2 年生のみが作成した。

冬季熊野古道歩き

滝尻王子を出発してすぐ、足元が不安定で急な山道が見え、気持ちが萎えてしまったが、気持ちを切り替え、頑張って切り替え登っていききました。

坂が急な上、木の根がむき出しになっているため、足をつく場所を間違えると、滑ったり躓いたりするため、普段歩くのに比べて倍くらいの体力を持っていかれました。

それが、20分程度続いたところで、胎内くぐりの岩や乳岩、不寝王子の石碑があり、少し休憩をして、再び急な山道を登りました。

登り切った後、山の尾根筋を少し歩くと飯盛山展望台があります。そこでの景色は見通しも良く、疲れも和らぎます。

春夏秋冬それぞれ違う景色が見えて楽しめると思います。

飯盛山から高原までの道は、多少のアップダウンはありますが、滝尻王子から不寝王子までに比べると全然楽に感じました。

今回、歩いたコースは最初はしんどいものの、そこさえ過ぎればそれほどでもなく、景色も良いので、山登りの初心者向きだと思います。

また、春夏秋冬四季折々の風景を楽しむことができるお薦めのコースです。



険しさとしんどさを超えれば達成感



熊野古道を歩いたのは 2 回目でした。でもコースが以前と違っていたので少し新鮮味がありました。

最初から上り坂が多く、すごくしんどかったです。でも歩いてきた道を振り返ってみると広大な自然が広がっていてその景色を見ると少し心が癒されました。

さすが熊野古道ということで道はぼこぼこしているところが多く、何度もこけそうになりましたが上へ上へと登っていくことで達成感を感じました。途中、展望台のようなところで下の景色を見ました。飯盛山というところで、上から下の景色を見たらここまで登ってこれたんだ、自分頑張ったなどこ

でも達成感を感じました。集合写真もとることができ、思い出になりました。

そしてまた進み、今までで一番長くて急な道がありました。そこでの記憶はしんどすぎてあまり残っていません。3 回ほどそれは続き、すごく息が上がりました。でも上についた時の幸福感は残っています。熊野古道をのぼると爽快感を得られるんだなど実感しました。この坂を超えてからは平坦な道で、自然を感じることができました。熊野古道をまた歩くことができよかったです。歴史に触れることができた気がします！

よみがえりの地 熊野古道

熊野古道の入り口付近には太く、高く伸びた木があります！なぜ根がむき出しになっているのか？

それは今から約 1 3 4 年前。明治 2 年に起こった十津川大水害が原因だそうです…

しかし！大きな水害でたくさんの土を削られたのにもかかわらず、今でも一際目立つような形で残っているのです！！私はそこに一番の魅力を感じました・・・！

そして昔の地表は今の地表よりも高いことがわかります。

実際に行ってみると木陰からさす太陽の光が、太く、高く伸びた木を照らしてくれ写真で見るとはまた違う迫力を感じることができます！

熊野古道を歩くことによって自然と触れ合うことの楽しさや、自然を守っていくことの大切さなどを深く学ぶことができる大切な時間でした！

